

報告事項サ

韓国国立慶州文化財研究所主催・国際学術大会への参加について

韓国国立慶州文化財研究所主催・国際学術大会への参加について、別紙のとおり報告します。

平成30年8月17日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

韓国 国立慶州文化財研究所主催・国際学術大会への参加について

平成30年8月17日

文化財課

韓国の国立慶州文化財研究所の依頼を受け、慶州市で開催された国際学術大会に埋蔵文化財センター職員を派遣し、国史跡妻木晩田遺跡と青谷上寺地遺跡における古環境研究と史跡の整備・活用についての発表を行いました。

1 国際学術大会の概要

主催 国立慶州文化財研究所

日時 6月27日(水)・28日(木)

場所 韓国 慶尚北道 慶州市 現代ホテル

名称 国際学術大会「月城古環境復原研究」

*月城は紀元1世紀頃に築城された新羅の王城。国立慶州文化財研究所が発掘調査研究を進めている。

発表者 韓国8名、中国1名、日本3名(埋蔵文化財センター職員を含む)

構成 1日目 古環境研究の現状・国外の事例(韓国1名、中国1名、日本2名)

2日目午前 古環境研究の現状・国内の事例(韓国4名)

午後 古環境研究・活用の事例(韓国4名、埋蔵文化財センター職員)

総合討論(韓国13人、埋蔵文化財センター職員)

古環境研究をテーマにした韓国で初めての国際シンポジウム。近年、韓国では、遺跡から出土する動植物遺体等を分析する古環境研究が注目されている。

国立慶州文化財研究所では、国史跡妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡における古環境研究や、その成果に基づく史跡の整備や活用を、日本における先進的な事例として高く評価しており、派遣した埋蔵文化財センター職員が2日目午後の部の発表と総合討論に参加した。

2 発表の概要

派遣職員 埋蔵文化財センター 青谷上寺地遺跡調査整備担当 係長 濱田竜彦

発表内容 演題 「古環境研究と遺跡の整備・活用」

国史跡妻木晩田遺跡と青谷上寺地遺跡で実践している古環境の復原に関わる調査研究及びその成果に基づく史跡整備の事例を紹介。むきぼんだ史跡公園に整備された「弥生の森」の活用、平成29年3月に開催した第1回とっとり弥生の王国シンポジウム「倭人の食卓」を取り上げ、市民に遺跡を身近に感じてもらう上で古環境研究が重要であることを論じた。

3 成果

○ 韓国や中国の考古学・文化財の専門家、慶州市民に鳥取県の取り組みに関心をもってもらうことができた。

→ 開催前に韓国の新聞にも関連記事が掲載され、妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡に関する発表が行われることが周知されていた。また発表後もたくさんの質問を受けた。

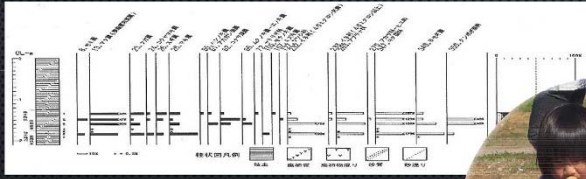
○ 国立慶州文化財研究所をはじめ、韓国内の大学や研究機関の専門家と交流を図った。

○ 国立慶州文化財研究所所長から、今後、鳥取県埋蔵文化財センターと人事交流や共同研究等を行いたいとの申し入れがあった。

→ 第3回とっとり弥生文化シンポジウムに、国立慶州文化財研究所の古環境復原を専門とする研究員に発表を依頼する予定。

古環境研究と 遺跡の整備と活用

고환경 연구 및 유적의 정비와 활용



鳥取県埋蔵文化財センター

돗토리현매장문화재센터

濱田 竜彦

하마다 다쓰히코



「古環境研究と遺跡の整備と活用」発表の様子



総合討論の様子